

やすらぎ

日本聖公会 九州教区 福岡聖パウロ教会
〒810-0045 福岡市中央区草香江 2-9-22
TEL 092-751-0097 FAX 092-751-9916
発行人 司祭 バルナバ 牛島幹夫

249号

2019.9.1 発行

YASURAGI



「祈りこそがわたしたちの力です」

司祭 バルナバ 牛島幹夫

「主よ、ヨハネが弟子達に教えたように、
わたしたちにも祈りを教えてください」
ルカによる福音書 11章1節

冒頭の聖句は7月28日(日)の主日礼拝で朗読される福音書中の一節です。この日の福音書によると、弟子の一人が「主よ、ヨハネが弟子達に教えたように、わたしたちにも祈りを教えてください」と言ったことに応じて、イエスは主の祈りを弟子達に教えられました。そして、引き続いて、繰り返し執拗に祈り続けるようにと、たとえを通して語られました。(ルカ11章1-13)

主の祈りは、言うまでもなくキリストが教えてくださったものであり、祈りの中の祈りです。「毎日主の祈りをしています」という人も多いのではないのでしょうか。今日はこの場所を借りて、主の祈りにはほんとうに力があると感じた時のことを紹介いたします。

8月11日にアブラハム大原良行さんが94才で天に召されました。7月下旬になって大原さんが入院した知らせをお聞きし、お見舞いに駆けつけた時のことです。私の顔を見た大原さんは、まず第一声「キリスト様にお祈りしたい」と言って私の手を取り主の祈りを祈られました。私も一緒に主の祈りをしました。かすれる声でしたが、思いをこめて祈る大原さんの姿を前にして、私は心打たれました。共に祈りを捧げた後に、病者のための按手をし、主に癒やしを願いました。しばらくの間ベッドサイドに座って、大原さんの手を握って過ごしましたが、その後は少し安心して寝息をたてておられました。

再度お訪ねした折にも、私が祈りを捧げると大原さんは「私もお祈りしたい」と言って主の祈りを捧げられました。実習中の神学生も一緒だったので、3人で共に祈り

ました。大原さんとの交わりを通して、主の祈りにイエス様の力が宿っていることを強く感じる時となりました。

90才を前にして教会で学びの時を過ごし堅信式を受けられた大原さんですが、それ以来、主の祈りをとても大切にしていたそうです。これは私の感想ですが、主の祈りこそが大原さんの祈りだったということだと思います。

キリスト者として生きる私たちにとって、祈ることはとても大切なことです。祈ることによって神様を生活の中に招き入れ、祈ることによって神様を柱とした人生を歩むのです。祈りこそが、キリスト者にとっての最も大切な務めであり、祈りはキリスト者にとっての大切な奉仕の業なのだと私は信じています。

教会で祈りの時をもらったり聖書を共に読んだりするときに、「どうやって祈ったらよいか分かりません。」とか「みんなのように上手に祈れないので、私にはちょっと…」などという言葉をお聞きしたことがあります。そんな方にこそ、私は主の祈りをお勧めします。すべての思いをこめて主の祈りを祈ってください。神様は、祈る人の思いを必ず聞いてくださいます。

もし、「でも、Aさんのために祈りたいのです。」と思うのなら、シンプルにこう祈ってください。「神様、Aさんを守ってください。イエス様によってお祈りします。」

イエス様は、わたしたちに執拗に祈り続けるように教えられました。祈りましょう。祈り続けましょう。祈る私たちを神様は力強く守ってくださいます。